様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　　元 年　　６ 月 ２４ 日現在

機関番号：３２７１９
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｋ０３２４０

研究課題名（和文）美容整形の受容と拡大が照らし出す日本社会と韓国社会

研究課題名（英文）The Acceptance and Expansion of Cosmetic Surgery in Japan and South Korea

研究代表者
川添　裕子（Kawazoe, Hiroko）

松蔭大学・公私立大学の部局等・教授

研究者番号：１０４００８２１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、美容整形の歴史と政策について、文献と聞き取り調査から日韓比較を行い、身体文化研究、医療環境、および両国理解を深めることを目的とした。韓国は、美容整形の推進を経済発展と文化の「韓国化」に繋げた。一方日本では、メディカルツーリズムに関する行政の管理や施策は健診と治療が前提のため美容整形は基本的に排除されるなど、国の方針に美容医療領域の不透明性を高める可能性があることが示唆された。文化戦略、世界競争だけでなく、患者の保護、美容医療の透明性の確保、先端医療開発継続の視点を持ち、治療か美容かの区別なく、適切な規制、全国統計を取る必要があることを提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の意義は、美容整形が実施されている場だけでなく、美容整形を化粧やイレズミなど他の身体加工とも比較したことにある。研究代表者がメンバーとなっている身体関係の研究会のネットワークを活用して議論を深め、イレズミと美容整形の共同の公開講演会も実施できた。美容整形の受容と拡大の分析を通して、ローカル、グローバルな視点から、身体文化、医療環境、日韓理解促進を目指すとともに、患者の利益を損なわないような制度構築に貢献するための知見も提示した。

研究成果の概要（英文）：This study explored aesthetic(/cosmetic) medical history and policy in Japan and South Korea, in order to deepen body culture studies, medical environments and understanding between the two countries. It was found that South Korea promoted aesthetic medicine and this led to the "Koreanization," of cosmetic surgery and culture as a whole. However, in terms of Japanese medical tourism policy, aesthetic medical procedures have been excluded from most administrative measures. The Japanese approach can lead to risk and uncertainty in aesthetic medicine and beauty markets. It is suggested that aesthetic medicine should be judged not only by cultural strategy and global market competitiveness, but also from perspectives that protect individual patients, clarify aesthetic medical procedures and develop advanced medical technology, accompanied by inclusive statistics regardless of patients' purposes, disease or beauty, and their nationalities.

研究分野：文化人類学

キーワード：美容整形　美容医療　メディカルツーリズム　美　日本　社会

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

美容整形（本研究では手術と非手術をさす）は、19 世紀ヨーロッパで誕生し、世界に拡大した。診断基準が白人美に依拠するため、早くから人種的外見の医療化、白人美への標準化などの問題も指摘されてきた。さらにアジア圏の現地調査からは、複雑な社会文化的要因も報告されている。たとえば Wen（2013）は、美容整形が西洋技術と中国伝統の美の両方を満たす国家的なプロジェクトであったことを指摘、文化大革命前後の中国女性の理想美の変化、身体への関与、市場の思惑との間で発展してきた経緯を描いた。川添（2013）は、90 年代末の日韓調査をもとに、「普通文化」の日本社会では、美容整形をすることが「普通でないことをした」と否定的に捉えられかねないため、秘密にされる傾向が高く、秘密が保てない飛び切りの美人や白人の容貌に近づけるのは望まれないと解釈した。

日本では、美容整形と聞いて真っ先に隣の韓国を思い浮かべる人が多いが、国別美容医療施術件数統計によると、日本は、アメリカ、ブラジル、中国に続き世界第 4 位にランクづけられている（「国際美容（形成）外科学会（ISAPS）」2011 年版）。既にメスを使わない美容整形は「普通」になってきているようにもみえる。美容整形の流行や認識の背景には、政治経済や医療環境なども含めた社会的要因がある。日本と韓国の美容整形の受容と拡大の比較検討は、ローカル、グローバルな視点からの美容整形と両国の社会全体の変遷と現状の考察を意味する。前回調査で聞かれた身体に関する道徳規範はどうなったのか。韓国の美容整形推進の背景には何があるのか。美容整形をめぐる医療トラブルは、患者に慎重な医療機関選択を求めるだけで防げるのか。日本と韓国の美容整形について比較研究を行うことは、身体文化研究、医療環境、日韓の理解促進にも繋がると考えて本研究を構想した。

２．研究の目的

本研究は、美容整形が実施される場だけでなく、美容整形自体を化粧やイレズミなど他の身体加工術と比較することで、美容整形の歴史と政策について検討し、身体文化研究、医療環境、及び日本と韓国の理解を深めることを目的とした。成果と関連論文の英語化、患者の利益を損なわない制度設計を含む知見の提示も目指した。

３．研究の方法

本研究のメンバーは、研究代表者の川添裕子（2016～2018 年度）と、研究分担者の金振晩（2017～2018 年度）と金宰郁（2017～2018 年度）である。松蔭大学研究倫理審査委員会の承認を経て（承認番号 12）、文献研究、聞き取り調査を行った。川添は、初年度から最終年度まで、全ての調査に従事した。金振晩は、専門の観光学をいかし、2018 年度に韓国メディカルツーリズム関係の調査を川添と共同で行った。金宰郁は、韓国語文献分析と、2017 年韓国美容クリニック医師の聞き取り調査の一部を川添と共同で行った。

具体的には、文献資料は、美容整形、メディカルツーリズム、再生医療、ヘルスケアシステム、医療倫理をキーワードに、日本語・英語（川添）、韓国語（金振晩、金宰郁）で執筆されたものを中心に検索・精査した。考察にあたっては、これまで十分に光が当てられなかった美容整形誕生前後の時期と、日韓で美容整形の拡大・産業化が加速した 2000 年以降に焦点を当てた。調査は、関東圏、関西圏、ソウルで、美容クリニック、医師、美容医療関連学会、美容整形経験者に聞き取りを行った。研究機関関連は、化粧文化研究会、乳房文化研究会、韓国・朝鮮文化研究会、建国大学、祥明大学、梨花女子大学で、メンバーや研究者間の議論に参加、活動成果を参照し合うとともに、大学生に予備的なアンケートも行った。メディカルツーリズム関係は、経済産業省、メディカルエクセレンスジャパン、韓国保健産業振興院、韓国国際医療協会、韓国文化観光院、韓国医療紛争調整仲裁院、メディカルコリア会議で、対面、電話、メールで聞き取りを行った（韓国美容クリニックの一部は川添と金宰郁、韓国観光機関は川添と金振晩、それ以外は川添）。また韓国に先行してメディカルツーリズム市場に参入し、日本人患者も受け入れているタイで資料収集し、日本での研究経験もあるタイ国立開発行政研究院図書館研究員に面会を行い、タイの医療及び美容整形について説明を受けた。初年度に、イレズミと美容整形の共同公開対談会を東京で実施した（川添）。

４．研究成果

（1）ローカルな事情：組織化、拡大、道徳規範

日本では 19 世紀末に最初の美容整形が行われた（美甘光太郎「眼瞼成形小技」『中外醫事新報』396:1197-1203、1894 年）。西洋美学概念の翻訳、化粧製造市場の活性化、漢医学から西洋医学へのシフト、そして再建治療の全面化が、ヨーロッパ発の美容整形の実践も後押ししたと考えられる。非切開方式、切開方式で目や鼻の美容整形が実施された。美容整形が浸透していったのは第二次世界大戦後である。併行して充填材による隆鼻術や豊胸術の医療トラブルも報告された。

1978 年以降、「日本美容外科学会」という同名の学会が二つ並存するなどの混迷もあるが、2018

年「日本美容外科学会（JSAPS）」は、学会の枠をこえて、美容医療を実施していると思われる全国の美容クリニック 3,656 院に対して「第 1 回全国美容医療実態調査（2017 年）」を実施した。回答した 521 院（回答率：14.3%）で 2017 年の 1 年間に実施された美容医療件数は 1,603,318 件（外科的手技：278,507．非外科的主義：1,324,811）である（2019 年 2 月 1 日 JSAPS 調査委委員会最終報告書）。未回答分も含めた推計の年間実施件数は約 320 万件とされている。こうした流行ぶりを裏付けるように、ネット上には、匿名の情報交換、美容整形経験や経過の公表や、総合的なネット環境を提供するプラットフォームビジネスも登場している。

調査の限りでは、90 年代末の調査ではしばしば聞かれた「親からもらった身体を傷つけるのでは」といった儒教由来の道徳観を口にする人はいなかった。儒教は日本では表層的にしか導入されなかったから影響力を失うのも早いと解釈することもできるが、Nakamura（2007）は、儒教の教えは、一つの正しい解釈に制限されるのではなく、ある行為や結果を説明するために用いられると指摘している。韓国では、たとえば美容リアリティ番組で、美容整形が親子関係の再構築に繋がると強調される（Elfving-Hwang、 2013）。表層的な導入かどうかに関わらず、儒教は、美容整形の肯定にも否定にも用いられるといえる。

韓国の美容整形の歴史は日本統治時代に遡るが、浸透は、朝鮮戦争で従軍した米軍医 David Ralph Millard によるところが大きい。ミラードは、韓国で戦傷者や唇裂など再建手術の他、美容整形も行った（DiMoia、 2013）。東洋人の目を西洋人の目に手術で「修正」したミラードの業績は、批判も含め今日でも引用される。なお韓国では美容整形/美容外科（cosmetic surgery）は、成形外科/形成外科（plastic surgery）と呼ばれることが多いが、美容に携わる医師は成形外科医だけではない。

1980～90 年代、韓国の美容整形は、国家の経済、文化、政治とともに発展した。そして 90 年代末のアジア通貨危機と続く「世界通貨基金（IMF）」からの資金援助を経て、美容整形は製造業に変わる新たな市場として国からも認知された。西洋の医学であった美容整形は、韓国文化の一部になり、グローバルな美容市場で広告力をもち「韓国化」した（Leem、 2015）。

医療システムは重層的かつ多層的である。韓国は伝統医療中心から、19 世紀末に西洋式病院が開設され、20 世紀前半は日本を通して西洋医療が導入された。さらに日本の漢方は独自の教育体制を築けなかったが、韓国では韓方と西洋医学の二本立て「韓国医療」体制が確立し、「メディカルコリア」の存在を世界に向けた発信がなされている。韓国の美容整形推進は、経済的課題の克服、国家的アイデンティティ及び文化戦略としての「韓国化」の一部であり、かつそれを補強するものであることが示された。

（2）国境をこえて：メディカルツーリズム体制

現在、医療は国内だけでなくグローバルな展開をしている。日韓とも、2009 年前後にメディカルツーリズムを成長戦略として国家方針に組み込んだ。

韓国は、韓国保健福祉部と韓国産業振興院を中心に、美容整形も含んで登録制度や訴訟仲裁機関などを整備してきた。美容整形、化粧品など美容産業は、「K-ビューティー」ブームを作り出し、韓国の存在を世界にアピールしている。2017 年、韓国の成形外科は 48,849 人、皮膚科は 43,327 人の外国人患者を受け入れた（韓国産業振興院、2017 年統計）。両診療科の多くを美容目的の患者が占めると考えられる。統計では、日本からの患者は成形外科（5,947 人）、皮膚科（9,277 人）である。日本国内で実践されている数字からみればごく一部ではあるが、第三次韓流ブーム、「オルチャンメイク」（韓国風カワイイ化粧）人気もあって、日本のメディアでも「訪韓美容整形」と取り上げられた。ソウルの美容クリニック医師たちは、韓国人、中国人と比べ、日本人患者には大きな変化を望まない、医師任せで診察後に不満を訴える傾向があると述べていた。「いつでもどこでも誰でも同じ診療が受けられる」国民皆保険体制（1961 年～）と医師の高い社会的地位が定着している日本では、国内の美容整形患者の中にも「お任せ」傾向が垣間見えた。現在、訪韓メディカルツーリストで一番多いのは中国からの患者だが、今後中国国内の美容整形技術が向上し訪韓旅行者が減ることも考えられる。聞き取り調査からは、相対的に施術費用が安価で非緊急的な「美容整形の国」から、代替え不可能な「先端医療の国」への変貌の模索も始まっていることも窺えた。

日本のメディカルツーリズムは、医師会が医療の産業化へ反対を表明するなどの経緯もあり、あまり積極的には推進されてこなかった。しかし訪日外国人旅行者と外国人労働者の増加、2020 年の東京オリンピックを控えて、医療機関や業者の登録制度などが実際に動き出した。全体を統括する機関はなく、各省庁がそれぞれ登録制度を含め体制を整えている感は否めない。基本的に「健診」、「（標準）治療」（及び「温泉やエステ」）が前提なので、美容整形は行政の管理の対象外になることが多い。日本の文化戦略にとっても医療のグローバル市場においても、美容整形が占める割合は少ないと思われるが、患者保護、倫理面からも考える必要がある。韓国のように登録制度などを整備しても、美容整形は他科よりトラブルが生じやすい。国として全国統計も取らず、学会と医師任せで、患者に慎重な医療選択を求めるだけではトラブルは減少しない。再生医療も含めて技術の応用は、難治の疾病から美容まで様々な診療領域で応用される。グローバル状況では、未承認の材料や術法は、規制の緩い地で行われる。美容領域での問題が、再生医療全体の進行や国のイメージに否定的な影響を与えないとは限らない。行政機関（当面は関連学会）には、治療か美容かの区別なく、適切な規制を視野に入れて、件数や患者属性など最低限の統計資料を整えておくことが求められる。

（3）課題と展望

美容整形経験者へのインタビューは、当初は、手術、非手術、男女を予定していたが、了承を得るのに難航し、結果的には非手術、女性にしか聞き取りを行えなかった。今後は、インターネットなどを利用して一般の人に直接呼びかける環境を作る必要がある。川添が過去に執筆した日韓美容整形比較に関する論文の著者英訳を校正し、研究者 SNS（Academia.edu）で公開したことで、日本語話者以外の関係者／研究者との議論はスムーズに進んだが、研究期間内に国際研究集会を開催することはできなかった。現在、建国大学「身体文化研究所（ICB）」と間で、開催に向けた準備を始めている。また研究期間中に英国 Palgrave Macmillan 社の新シリーズ「Fashion and the Body」の編集メンバーに加わり、本研究も含め日韓、アジアの身体研究者と共著を企画中だが、具体化にはまだ時間を要する。日韓美容整形の患者に関する論考は川添・金宰郁共著で『松蔭大学紀要』26 号（2020 年 3 月刊行予定）に投稿する。

＜引用文献＞

DiMoia, John P., *Reconstructing Bodies: Biomedicine, Health, and Nation-Building in South Korea since 1945*, Standard UP, 2013.

Elfving-Hwang, Joanna, Cosmetic Surgery and Embodying the Moral Self in South Korean Popular Makeover Culture, *The Asia-Pacific Journal*, Vol.11, Issue 24, No.2, 2013, 1-17.

川添裕子、美容整形と＜普通のわたし＞、青弓社、2013。

Leem, So Yeon, The Dubious Enhancement: Making South Korea a Plastic Surgery Nation, *East Asian Science, Technology and Society,* Vol.10, 2015, 1-21.

Nakamura, Yae, The Expression of Confucianism in Modern Medical Care in Korea, with a Focus on Organ Transplants, *Japanese Review of Cultural Anthropology*, Vol.8, 2007, 53-75.

Wen, Hua, *Buying Beauty: Cosmetic Surgery in China*, Hong Kong UP, 2013.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　3 件）

① Kawazoe, Hiroko, The Historical and Cultural Context of Cosmetic Surgery in Japan, *Shoin Review*, 査読無, Vol.24, 2018, 97-116, https://shoin-u.academia.edu/HKawazoe
② 川添裕子、日本語の「美」の歴史性、松蔭大学文化教育所研究年報、査読無、 6 巻、2018、116-122。
③ 川添裕子、身体から溢れ出る美、 松蔭大学紀要、査読無、21 巻、2017、 121-132。

〔学会発表〕（計　1 件）

① Kawazoe, Hiroko, Kim, Jinman, The Need for Statistics and Regulations: Aesthetic/Cosmetic Medical Tourism in Japan, Asia Pacific Tourism Association, 査読有, July 3 2019, APTA & Duy University, Grand Mercure, Danang (Vietnam).

〔図書〕（計　2 件）

① 澤野美智子、飯田淳子、磯野真穂、井藤美由紀、川添裕子 他、明石書店、医療人類学を学ぶための 60 冊、2018、205-207。
② 北山晴一、山口久美子、田代眞一、川添裕子 他、朝倉書店、乳房の科学、2017、99-110。

〔その他〕

ホームページ等

④ https://shoin-u.academia.edu/HKawazoe
⑤ 山本芳美、川添裕子、人間の生み出した美の営み：「イレズミ」と「美容整形」から見る日本社会、読書人、3153 号、2016、1-2。
⑥ 山本芳美、川添裕子、＜じぶん＞をあそぶ：イレズミと美容整形の過去・現在・未来・の加工術、 2016 年 7 月 22 日、信愛書店スペース en=gawa（東京都・杉並区）。

６．研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：金　振晩

ローマ字氏名：KIM, jinman

所属研究機関名：帝京大学

部局名：経済学部

職名：准教授
研究者番号（8 桁）：60554160

研究分担者氏名：金　宰郁
ローマ字氏名：KIM, jaewook
所属研究機関名：松蔭大学
部局名：観光メディア文化学部
職名：講師
研究者番号（8 桁）：00799926